

グローバル愛 Global Love Volume. 090



日台学生の政治意識の違いを語る
郭育志さん＝刈谷市井ヶ谷町で

子どものころから、日本人の祖父から日本について聞かされて育った。「周りの電気製品も日本製だったし、日本のアニメもテレビで見てきた」と自然に日本への興味が湧いた。3年前に来日し、今は愛知教育大(刈谷市)で社会学を専攻

が高い」など、経済的なものもあると知った。「基地の必要性も分かるが、それなら、日本全体で分担した方がいいのではないか」
沖縄では自ら声を上げる学生たちも交流したが、愛知県に来てみると、沖縄の基地問題に関心を持つ学

生でも大人と議論するのが当たり前。あまり政治家のごとも信用していない」と政治意識の違いを指摘する。一方で、大学では日本人学生の真面目さに感心させられたという。台湾では大学に行っても授業以外はあまり勉強しない。「日本



故郷自慢 台湾の屋台はおいしくて安い。小籠包やタピオカミルクティーなどメニューも多彩。お薦めなのはご飯の上に甘い肉がのっているルーローファン、1杯100円ほどで購入できます。私の故郷の高雄など、南の地方では、料理によく砂糖を使うので、台北などに比べてやや甘い味付け。本場の台湾料理を食べるのなら、屋台がお薦めです。

④オドロキ

学生たち 政治無関心

している。
最初に留学した名桜大(沖縄県名護市)では、沖縄の基地問題について考えた。在日米軍専用施設の7割超が沖縄に集中する沖縄の苦悩の背景には、「他府県に比べ給料は安く、物価

生はほとんどいなかった。基地問題だけでなく、政治や社会の問題に対し、日本人の学生はあまり自分の意見を発言しないと感じる。「台湾では(2014年に学生らが立法院を占拠した)ひまわり運動のように、学

人はよく研究するし、自分も頑張らないといけないと思った」と話す。
愛教大では、同性愛など性的少数者(LGBT)の問題に関心を持ち、同大の支援団体「BALLoon(バルーン)」の活動に参

加。台湾でも同性婚が認められるなど、理解が進みつつある問題を日本からの視点も交えて研究する。卒業後は留学経験を生かし、留学生らをサポートできるような教員を目指している。(土屋晴康)

NEWS 2月6日深夜に台湾東部でマグニチュード(M)6.4の地震が発生し、多くの死傷者が出た。被災から間もなく、日本から「東日本大震災での、台湾からの支援に恩返しをしよう」と多くの寄付が寄せられた。訪台中だった日本の有名な俳優の多額寄付など、日台の友好関係を示すニュースとして台湾でも大きく取り上げられた。

台湾・高雄市出身 郭育志さん(24) 刈谷市、大学院生

